

さとうさとうきび増産に向けた取組目標及び取組計画

平成 27 年 12 月 28 日策定

伊江島

策定主体：伊江島さとうきび増産プロジェクト会議

さとうきび生産における基本的考え

【前計画（平成 18 年～平成 27 年）の達成状況の検証・評価】

(1) 数値目標の達成状況の検証

	収穫面積 (ha)				単収 (t / 10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計
平成 16 年産 (策定時)	41	2	39	82	6.9	2.3	4.0	5.4	2,826	37	1,585	4,448
平成 22 年産 (目標)	80	1	20	101	6.5	3.0	4.3	6.0	5,200	30	860	6,090
(実績)	65	1	25	90	7.0	5.7	4.4	6.3	4,520	45	1,091	5,656
(達成度 (%))	(80.9)	(78.0)	(123.0)	(89.2)	(107.4)	(191.1)	(103.2)	(104.6)	(86.9)	(149.0)	(126.9)	(92.9)
平成 27 年産 (目標)	70	1	20	91	6.5	3.0	4.3	6.0	4,550	30	860	5,440
平成 26 年産 (実績)	65	0	9	74	6.0	3.0	3.2	5.7	3,907	3	292	4,202
(達成度 (%))	(92.4)	(9.0)	(46.0)	(81.3)	(92.9)	(98.5)	(73.8)	(94.7)	(85.9)	(8.9)	(33.9)	(77.2)

区分	認定農業者	特定農業団体	受託組織	大規模生産農家
平成 17 年度 (策定時)	—	—	1	—
平成 22 年度 (目標)	12	—	1	—
(実績)	4	—	—	—
(達成度 (%))	(33.3)	—	—	—
平成 27 年度 (目標)	12	—	1	—
平成 26 年度 (実績)	4	—	—	—
(達成度 (%))	(33.3)	—	—	—

(2) 評価

① 前計画で挙げた課題

- ・ 堆肥の投入、緑肥の活用による土づくり
- ・ 病害に強く、地域にあった品種の普及
- ・ 病害虫防除対策
- ・ 株出の適期管理
- ・ 防風保安林の整備
- ・ 本島への原料輸送

② 課題に対する取組内容

- ・ バガスの畑地還元、耕畜連携による堆肥等の土づくりを推進する。
- ・ 地域に適した品種の普及及び栽培講習会を開催する。
- ・ 病害抵抗性品種を導入及び無病健全苗の普及を推進する。
- ・ 収穫請負組織や植付班等の強化を図る。
- ・ 防風保安林を整備する。

③ 解決した課題

- ・ 島内に製糖工場が整備され、輸送問題は解決した。

④ 依然として残っている課題

- ・ 耕土が浅く、干ばつの影響を受けやすい。
- ・ 平坦な地形であることから、台風の影響を受けやすく、防風・防潮林等の整備が必要がある。
- ・ 畑地の主要土壌が弱アルカリ性で地力の低い島尻マーヅであり、堆肥・緑肥の導入による土壌改良が必要である。
- ・ 農業用水確保のための地下ダム事業、及び多量降雨時の排水対策が必要である。

⑤ 新たに生じた課題

- ・ 含蜜工場の整備により、黒糖向け品種の選定及び普及を図る必要がある。
- ・ 収穫面積の増加や農家の高齢化により現在の手刈り収穫体系の維持が難しく、機械化体系の導入を検討する必要がある。

【新たな目標】

(1) 生産目標

	収穫面積 (ha)				単収 (t / 10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計
平成 26 年産 (現状)	65	0	9	74	6.0	3.0	3.2	5.7	3,907	3	292	4,202
平成 28 年産 (目標)	70	1	9	80	6.5	3.0	4.0	6.2	4,550	30	360	4,940
平成 29 年産 (目標)	70	2	10	82	6.5	3.0	4.0	6.1	4,550	60	400	5,010
平成 30 年産 (目標)	70	2	10	82	6.5	3.0	4.0	6.1	4,550	60	400	5,010
平成 31 年産 (目標)	70	3	12	85	6.5	3.0	4.0	6.0	4,550	90	480	5,120
平成 32 年産 (目標)	70	3	12	85	6.5	3.0	4.0	6.0	4,550	90	480	5,120
平成 37 年産 (目標)	70	5	15	90	6.5	3.0	4.0	5.9	4,550	150	600	5,300

(2) 担い手育成目標

区分	認定農業者	特定農業団体	受託組織	大規模生産農家
平成 27 年度 (現状)	4	—	1	—
平成 32 年度 (目標)	6	—	1	—
平成 37 年度 (目標)	9	—	2	—

(3) 目標達成に向けた取組方向

- ・黒糖向けの生産性の高い品種の普及を図る。
- ・適期植付、株出管理機等を活用した適期肥培管理の推進による単収向上
- ・堆肥の活用による有機物の畑地還元
- ・雑草防除及び薬剤施用等によるイネヨトウ防除の推進
- ・地下ダム及び貯水池の活用による畑地かんがい施設等の整備によるかん水対策
- ・農地防風林の整備
- ・実証展示ほを活用した春植の推進

目標達成に向けた取組計画

(1) 経営基盤の強化

項目	現状及び課題	目標及び計画	備考																																											
<p>①農地の利用 集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保</p>	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手確保のため、認定農業者の人数を増加させる必要がある</li> <li>・中核的なさとうきびの担い手の確保のため、認定農業者等の育成に取り組んだ。</li> <li>・種苗対策等と合わせ、葉たばこや園芸作物品目との輪作体系を推進し1戸当たりの栽培面積の拡大を図っている。</li> </ul> <p>【現状】</p> <p>&lt;担い手育成状況（H26年度）&gt;</p> <table border="1" data-bbox="412 647 831 751"> <tr> <td>認定農業者（経営体）</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>生産法人数（法人）</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>法人構成員数（人）</td> <td>0</td> </tr> </table> <p>&lt;期間作業別の担い手の面積（平成26/27年期実績）&gt; 単位：ha</p> <table border="1" data-bbox="412 847 1093 1067"> <thead> <tr> <th></th> <th>耕起・畝立</th> <th>植付</th> <th>収穫</th> <th>株出管理</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定農業者</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>受託組織</td> <td>0</td> <td>10</td> <td>17.9</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>大規模農業者（1ha以上）</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※大規模農業者は認定農業者を除く ※「—」数値不明</p> <p>①受託組織：1組織（JAおきなわ伊江支店）植付班 20班（生産農家）収穫請負班</p>	認定農業者（経営体）	4	生産法人数（法人）	0	法人構成員数（人）	0		耕起・畝立	植付	収穫	株出管理	認定農業者	—	—	—	—	受託組織	0	10	17.9	0	大規模農業者（1ha以上）	—	—	—	—	その他	0	0	0	0	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定農業者や受託組織等の育成に努める。</li> <li>・輪作により農家の経営安定化を図る。</li> <li>・認定農業者への農地集積を図る。</li> </ul> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定農業者の育成</li> </ul> <p>&lt;担い手育成の目標&gt; (累計値)</p> <table border="1" data-bbox="1240 715 1677 916"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>取組目標及び計画</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>認定農業者 4名</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>認定農業者 4名</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>認定農業者 5名</td> </tr> <tr> <td>H31</td> <td>認定農業者 5名</td> </tr> <tr> <td>H32</td> <td>認定農業者 6名</td> </tr> </tbody> </table>	年度	取組目標及び計画	H28	認定農業者 4名	H29	認定農業者 4名	H30	認定農業者 5名	H31	認定農業者 5名	H32	認定農業者 6名	
認定農業者（経営体）	4																																													
生産法人数（法人）	0																																													
法人構成員数（人）	0																																													
	耕起・畝立	植付	収穫	株出管理																																										
認定農業者	—	—	—	—																																										
受託組織	0	10	17.9	0																																										
大規模農業者（1ha以上）	—	—	—	—																																										
その他	0	0	0	0																																										
年度	取組目標及び計画																																													
H28	認定農業者 4名																																													
H29	認定農業者 4名																																													
H30	認定農業者 5名																																													
H31	認定農業者 5名																																													
H32	認定農業者 6名																																													

	<p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・葉たばこや野菜、肉用牛との複合経営でさとうきび生産を行っている為、一戸当たりの生産量は少ない。さらに経営を安定させるため、土地を集約し、さとうきび栽培面積の拡大を図る必要がある。</li> <li>・中核的な担い手として認定農業者及び受託組織等の育成を図る必要がある。</li> </ul>	<p><b>【計画】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人・農地プランや農地中間管理事業の活用により、中核的な担い手である認定農業者に農地を集積し、規模拡大を図り、認定農業者の育成に努める。</li> <li>・補助事業等を活用した機械導入を支援し、受託組織の育成と強化を図る。</li> <li>・担い手農家に対して、輪作体系や栽培技術講習会や品種の勉強会を実施していく。</li> </ul>																																														
<p>②農業共済制度への加入促進</p>	<p><b>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成16年度の加入率は23.7%となっているが、17年度から個人別危険段階共済掛金率の導入に向けて取り組んだ結果、加入申込は伸びており、経営基盤を強化するために引き続き加入率向上に努める必要がある。</li> <li>・さとうきび生産組合の会議等と連携して制度普及、加入促進を行った。</li> <li>・平成24年から農業共済事業推進連絡協議会を開催し、農業共済加入推進を行った。</li> </ul> <p><b>【現状】</b></p> <p>&lt;畑作物共済加入状況&gt;</p> <table border="1" data-bbox="409 938 1113 1126"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H16</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有資格者数(人)</td> <td>292</td> <td>131</td> </tr> <tr> <td>共済加入戸数(率)</td> <td>89 (30.5%)</td> <td>120 (91.6%)</td> </tr> <tr> <td>引受面積(率)</td> <td>38ha (23.7%)</td> <td>65.4ha (107%)</td> </tr> <tr> <td>支払金額(千円)</td> <td>2,413 千円</td> <td>73,505 千円</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加入率が高く年々増加の傾向にある。万が一の為の保険である共済を全農家が加入するよう、引き続き関係機関一体となって加入を推進する必要がある。</li> </ul>	項目	H16	H25	有資格者数(人)	292	131	共済加入戸数(率)	89 (30.5%)	120 (91.6%)	引受面積(率)	38ha (23.7%)	65.4ha (107%)	支払金額(千円)	2,413 千円	73,505 千円	<p><b>【取組の方向】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共済制度の周知と加入促進を図る。</li> </ul> <p><b>【目標】</b></p> <p>&lt;畑作物加入目標&gt;</p> <table border="1" data-bbox="1236 938 1850 1107"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>H32</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加入戸数(戸)</td> <td>152</td> <td>152</td> <td>152</td> <td>155</td> <td>155</td> </tr> <tr> <td>戸数引受率(%)</td> <td>95</td> <td>95</td> <td>95</td> <td>97</td> <td>97</td> </tr> <tr> <td>引受面積(ha)</td> <td>76</td> <td>78</td> <td>78</td> <td>82</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>面積引受率(%)</td> <td>95</td> <td>95</td> <td>95</td> <td>97</td> <td>97</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【計画】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区長会など村の広報や集落、生産組合での共済制度説明会を開催し、引受推進に努める。</li> <li>・さとうきび増産プロジェクト会議や生産組合等と連携・協力して、加入推進を図る。</li> </ul>		H28	H29	H30	H31	H32	加入戸数(戸)	152	152	152	155	155	戸数引受率(%)	95	95	95	97	97	引受面積(ha)	76	78	78	82	82	面積引受率(%)	95	95	95	97	97	
項目	H16	H25																																														
有資格者数(人)	292	131																																														
共済加入戸数(率)	89 (30.5%)	120 (91.6%)																																														
引受面積(率)	38ha (23.7%)	65.4ha (107%)																																														
支払金額(千円)	2,413 千円	73,505 千円																																														
	H28	H29	H30	H31	H32																																											
加入戸数(戸)	152	152	152	155	155																																											
戸数引受率(%)	95	95	95	97	97																																											
引受面積(ha)	76	78	78	82	82																																											
面積引受率(%)	95	95	95	97	97																																											

(2) 生産基盤の強化

項目	現状及び課題	目標及び計画	備考																																																																																																																																			
①作型の選択	<p><b>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>株出面積を半分にし、夏植面積を増加する。</li> <li>手刈り体制になった事で株出面積は減少し、夏植一作型の体系である。</li> </ul> <p><b>【現状】</b>                      &lt;平成 23/24 年 期～平成 26/25 年 期 製糖実績&gt;</p> <table border="1" data-bbox="409 523 1086 863"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">収穫面積 (ha)</td> <td>夏</td> <td>50.7</td> <td>50.08</td> <td>59.5</td> <td>64.71</td> </tr> <tr> <td>春</td> <td>0</td> <td>0.89</td> <td>0</td> <td>0.09</td> </tr> <tr> <td>株</td> <td>5.6</td> <td>11.56</td> <td>5.5</td> <td>9.19</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>56.3</td> <td>62.53</td> <td>65</td> <td>73.99</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> <tr> <td rowspan="4">単収</td> <td>夏</td> <td>3,451</td> <td>5,202</td> <td>5,076</td> <td>6,038</td> </tr> <tr> <td>春</td> <td>0</td> <td>1,749</td> <td>0</td> <td>2,956</td> </tr> <tr> <td>株</td> <td>2,665</td> <td>2,921</td> <td>3,563</td> <td>3,174</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,373</td> <td>4,748</td> <td>4,948</td> <td>5,679</td> </tr> <tr> <td colspan="2">生産量 (t)</td> <td>1,899</td> <td>2,969</td> <td>3,216</td> <td>4,201</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夏植一作型ではなく、株出や春植を組み合わせることで、農家の所得の向上につなげる必要がある。</li> </ul>			H23	H24	H25	H26	収穫面積 (ha)	夏	50.7	50.08	59.5	64.71	春	0	0.89	0	0.09	株	5.6	11.56	5.5	9.19	計	56.3	62.53	65	73.99			H23	H24	H25	H26	単収	夏	3,451	5,202	5,076	6,038	春	0	1,749	0	2,956	株	2,665	2,921	3,563	3,174	計	3,373	4,748	4,948	5,679	生産量 (t)		1,899	2,969	3,216	4,201	<p><b>【取組の方向】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>春植、株出面積の拡大を推進する。</li> <li>春植向け品種の導入を図る。</li> </ul> <p><b>【目標】</b>                      &lt;平成 28/29 年 期～平成 32/33 年 期 生産目標&gt;</p> <table border="1" data-bbox="1160 523 1803 863"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>H32</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">収穫面積 (ha)</td> <td>夏</td> <td>70.0</td> <td>70.0</td> <td>70.0</td> <td>70.0</td> <td>70.0</td> </tr> <tr> <td>春</td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>3.0</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>株</td> <td>9.0</td> <td>10.0</td> <td>10.0</td> <td>12.0</td> <td>12.0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>80.0</td> <td>82.0</td> <td>82.0</td> <td>85.0</td> <td>85.0</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>H32</th> </tr> <tr> <td rowspan="4">単収</td> <td>夏</td> <td>7,000</td> <td>7,000</td> <td>7,000</td> <td>7,000</td> <td>7,000</td> </tr> <tr> <td>春</td> <td>3,000</td> <td>3,000</td> <td>3,000</td> <td>3,000</td> <td>3,000</td> </tr> <tr> <td>株</td> <td>4,000</td> <td>4,000</td> <td>4,000</td> <td>4,000</td> <td>4,000</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6,500</td> <td>6,500</td> <td>6,500</td> <td>6,500</td> <td>6,500</td> </tr> <tr> <td colspan="2">生産量 (t)</td> <td>5,290</td> <td>5,360</td> <td>5,360</td> <td>5,470</td> <td>5,740</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【計画】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 28 年から供用開始する地下ダムの農業用水や堆肥センターの堆肥を活用し、春植、株出の実証展示ほを設置し、その収益性を周知し、春植、株出面積の拡大を推進する。</li> </ul>			H28	H29	H30	H31	H32	収穫面積 (ha)	夏	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	春	1.0	2.0	2.0	3.0	3.0	株	9.0	10.0	10.0	12.0	12.0	計	80.0	82.0	82.0	85.0	85.0			H28	H29	H30	H31	H32	単収	夏	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	春	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	株	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	計	6,500	6,500	6,500	6,500	6,500	生産量 (t)		5,290	5,360	5,360	5,470	5,740	
		H23	H24	H25	H26																																																																																																																																	
収穫面積 (ha)	夏	50.7	50.08	59.5	64.71																																																																																																																																	
	春	0	0.89	0	0.09																																																																																																																																	
	株	5.6	11.56	5.5	9.19																																																																																																																																	
	計	56.3	62.53	65	73.99																																																																																																																																	
		H23	H24	H25	H26																																																																																																																																	
単収	夏	3,451	5,202	5,076	6,038																																																																																																																																	
	春	0	1,749	0	2,956																																																																																																																																	
	株	2,665	2,921	3,563	3,174																																																																																																																																	
	計	3,373	4,748	4,948	5,679																																																																																																																																	
生産量 (t)		1,899	2,969	3,216	4,201																																																																																																																																	
		H28	H29	H30	H31	H32																																																																																																																																
収穫面積 (ha)	夏	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0																																																																																																																																
	春	1.0	2.0	2.0	3.0	3.0																																																																																																																																
	株	9.0	10.0	10.0	12.0	12.0																																																																																																																																
	計	80.0	82.0	82.0	85.0	85.0																																																																																																																																
		H28	H29	H30	H31	H32																																																																																																																																
単収	夏	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000																																																																																																																																
	春	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000																																																																																																																																
	株	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000																																																																																																																																
	計	6,500	6,500	6,500	6,500	6,500																																																																																																																																
生産量 (t)		5,290	5,360	5,360	5,470	5,740																																																																																																																																
②気象災害に強い生産基盤の整備	<p><b>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>防風保安林の設置が十分でなく台風時の被害が大きい。</li> <li>防風保安林事業が導入されているが、事業規模が小さい。</li> <li>厳しい自然条件下にあるため、保安林の生育がよくない。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>防災農業の推進に取り組むため、パンフレット等を活用して防風林の重要性について普及啓発を行った。</li> </ul> </li> </ol>	<p><b>【取組の方向】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>かんがい整備事業を推進する。</li> <li>農地防風林の整備を推進する。</li> </ul>																																																																																																																																				

	<p><b>【現状】</b>          &lt;農業基盤整備の状況&gt;          ①土地基盤整備： 22.0%          ②畑地灌漑整備： 55.3%          ③水源整備： 35.5%          ④農地防風林： 57.68%          ※H26年度実績見込み</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台風時の被害が大きい地域なので、農地防風林の整備が引き続き必要である。</li> <li>・厳しい自然条件下にあるため、防風林等の栽培管理に通常より労力を要する。</li> <li>・干ばつの被害を受けやすい地理的条件であるため、畑地かんがい整備を重点的に推進する必要がある。</li> </ul>	<p><b>【目標】</b>          &lt;農業基盤整備の目標（H33年度）&gt;          ①土地基盤整備： 22.0%          ②畑地灌漑整備： 71.3%          ③水源整備： 96.8%          ④農地防風林： 100%（9地区）</p> <p><b>【計画】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、行われている畑地かんがい整備を計画的に推進する。</li> <li>・農地防風林の整備を推進するとともに、パンフレット等を活用して、農地防風林の整備・管理の重要性を啓発し、毎年防風林の日にあわせて、植樹祭を開催し普及推進に努める。</li> <li>・基盤整備の遅れている地域では、かん水車の整備を図る。</li> </ul>	
<p>③機械化一貫体系の確立</p>	<p><b>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</b></p> <p>①高齢化が進んでおり、生産量の安定的な確保のために機械化を進める必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・植付について、JAが窓口となり、プランタを所有している農家に作業を委託し、作業の機械化を図っている</li> <li>・ベビー脱葉機の導入により、収穫作業の一部を省力化している。</li> <li>・刈倒機利用による収穫体系の導入について検討した。</li> </ul>	<p><b>【取組の方向】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理作業の機械化を推進する。</li> <li>・新たな機械収穫体系の導入を検討する。</li> </ul>	

**【現状】**

＜農業機械等の稼働状況（H26年度）＞

単位：％

項目	稼働台数	稼働（収穫）面積率
ハーベスタ	1	1.2%
刈倒機	1	2.3%
株出管理機	－	－
プランタ	－	－
ベビー脱葉機	20	24.2%
ドラム脱葉機	1	0.5%

**【課題】**

- ・高齢化の進展に伴い、さとうきびの安定生産を図るため、農作業の機械化を促進する必要がある。
- ・収穫が手刈りの為、ベビー脱葉機の利用による収穫体系を構築したが、かなりの労力を要するため、現体系の維持が難しくなっている。
- ・刈倒機では、単収の良い畑では刈残しが発生すること、畦間にそった刈倒しとなり、その後の調整作業にかなりの労力を要することにより、刈倒機利用による収穫体系の導入は難しい。

**【目標】**

- ・農業機械の導入計画については、生産計画や関係機関と調整を図りながら検討していく

＜さとうきび機械稼働目標（H33年度）＞

項目	稼働台数	稼働（収穫）面積率
ハーベスタ	1台	24%
株出管理機	－	－
プランタ	－	－

**【計画】**

- ・農業機械の効率利用を図るため、JA支店の受託部門の強化等受託体制を整備する。
- ・関係機関と連携し、地域に合致した機械収穫体系の導入について検討会を行う。

④地力の増進

**【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】**

- ・堆肥センターは稼働しているが生産量が少なく葉たばこ・花卉中心に施用され、さとうきびに施用できる量の確保が出来ない
- ・製糖工場において、バガス等有機物の畑地還元に努めた。
- ・葉たばこや園芸作物品目との輪作体系による地力増進を推進した。
- ・耕畜連携による堆肥等の土づくりを推進した。

**【取組の方向】**

- ・堆肥投入による土づくりを推進する。
- ・緑肥作物による土づくりを推進する。



<p><b>【現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さとうきび生産農家の堆肥利用は、全体の3割程度にとどまっている。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さとうきび農家の土づくりに対する意識が低い。</li> <li>・緑肥作物栽培による土づくりが普及していない。</li> </ul>	<p><b>【目標】</b></p> <p>＜堆肥散布等の目標＞</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>年産</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>H32</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収穫面積 (ha)</td> <td>80</td> <td>82</td> <td>82</td> <td>85</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>散布面積 (ha)</td> <td>21.3</td> <td>24.6</td> <td>32.8</td> <td>34</td> <td>42.5</td> </tr> <tr> <td>利用割合 (%)</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>堆肥量 (t)</td> <td>1,065</td> <td>1,230</td> <td>1,640</td> <td>1,700</td> <td>2,125</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【計画】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊江村堆肥センターの再整備により、必要な堆肥量が十分に確保されており、堆肥の活用を推進していくため、事業により農家の堆肥利用を促進し、土づくりの意識啓発に努める。</li> <li>・堆肥、緑肥を利用した展示ほを設置し、土づくりの有用性を周知する。</li> </ul>	年産	H28	H29	H30	H31	H32	収穫面積 (ha)	80	82	82	85	85	散布面積 (ha)	21.3	24.6	32.8	34	42.5	利用割合 (%)	30	30	40	40	50	堆肥量 (t)	1,065	1,230	1,640	1,700	2,125
年産	H28	H29	H30	H31	H32																										
収穫面積 (ha)	80	82	82	85	85																										
散布面積 (ha)	21.3	24.6	32.8	34	42.5																										
利用割合 (%)	30	30	40	40	50																										
堆肥量 (t)	1,065	1,230	1,640	1,700	2,125																										

(3) 技術対策

項目	現状及び課題	目標及び計画	備考								
①栽培技術の普及等	<p><b>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・株出管理作業は、収穫作業後に一定期間おいてからの作業が多い。収穫後、適期に肥培管理できる体制整備が必要である。</li> <li>・生産性及び品質向上に向けた適期肥培管理の指導を実施した</li> <li>・栽培講習会、現場での講習会を開催した。</li> </ul> <p><b>【現状】</b></p> <p>＜適期肥培管理実施状況＞</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tbody> <tr> <td>栽培型</td> <td>達成率</td> </tr> <tr> <td>夏植</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>春植</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>株出</td> <td>70%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※適期限度：夏植 10月上旬、春植 3月、株出 3月</p> <p>①点滴かんがい、農業用タンク等の設置・普及状況</p>	栽培型	達成率	夏植	100%	春植	100%	株出	70%	<p><b>【取組の方向】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・株出について適期栽培管理の指導強化を図る。</li> <li>・かん水方法、適期かん水について周知する。</li> <li>・基本的栽培技術の周知・徹底を図る。</li> </ul> <p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・株出管理作業を3月までに90%完了させることとする (H32目標)</li> <li>・かん水展示ほの設置</li> </ul>	
栽培型	達成率										
夏植	100%										
春植	100%										
株出	70%										

- ・土地改良地区4地区の内2地区に関しては既設のスプリンクラーを利用し、一部かんがいを実施している。

**【課題】**

- ・生産農家への適期肥培管理（株出管理作業等）の指導・体制整備が必要である。
- ・かんがい施設の整備により、農業用水の利便性が大きく向上することから、かん水方法及び適期かん水について周知を図る必要がある。

**【計画】**

- ・栽培講習会、展示ほ等により、かん水の重要性を農家へ周知する。
- ・かんがい施設が整備された地区では、常時かん水が可能となることから、施設の利用を推進する。
- ・農作物緊急かん水車輛により、干ばつの際のかん水や台風後の除塩作業を推進する。

②優良品種の  
選択・普及

**【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】**

- ・黒穂病の防除対策のため、Ni9の栽培を抑え、Ni16の普及促進の必要がある。
- ・種苗管理センターからの無病健全な種苗の導入と原種ほ、採種ほの設置による優良品種の普及に努めた。

**【現状】**

<品種別作付割合の推移（過去10年）>

単位：%

	NiF8	Ni9	Ni15	NiH25	Ni27	その他
H17	68.3	28.6				3.0
H18	66.3	19.5				14.1
H19	46.7	36.3	12.0			5.0
H20	39.4	27.1	31.6			2.0
H21	7.9	11.4	79.7			0.9
H22	5.8	15.9	78.1			0.3
H23	17.1	19.2	63.6			0.2
H24	17.9	15.3	65.5			1.3
H25	12.9	22.5	59.5		0.8	4.5
H26	18.9	25.5	24.1	5.8	10.9	14.7

- ・原種ほ(50a)・採種ほ(2ha)
- ・品種実証ほ(10a)

**【取組の方向】**

- ・関係機関による種苗供給を推進する。
- ・黒糖製造に適した品種の普及推進を図る。
- ・脱葉性がよい品種の普及推進に努める。
- ・春植向けの品種の選定を行う。

**【目標】**

<品種構成目標>

単位：%

	NiF8	Ni9	Ni15	Ni27	31号	春植用
H32	10	10	15	30	30	5

- ・原種ほ、採種ほ設置目標：原種ほ55a、採種ほ2ha

	<p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・脱葉性が良好で黒糖製造に適した品種の普及推進が必要である。</li> <li>・春植向け品種の選定及び普及拡大を図る必要がある。</li> </ul>	<p><b>【計画】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原種ほ、採種ほの設置を行い、無病健全苗の普及を図る。なお、Ni27、Ni31を中心に増殖を図っていく。</li> <li>・春植向け品種選定試験ほを設置し、伊江島に適した春植品種の選定を行う。</li> </ul>									
<p>③病害虫対策</p>	<p><b>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一斉防除に費用と労力がかかる。</li> <li>・防除機が老朽化し、防除作業に支障をきたしている。</li> <li>・病害虫一斉防除の実施に努めた。</li> <li>・黒穂病の抜き取り作業を島全体で役場、J A、生産農家で協力して実施した。</li> </ul> <p><b>【現状】</b></p> <p>① 病害虫被害の状況</p> <table border="1" data-bbox="412 707 1104 946"> <thead> <tr> <th>病害虫名</th> <th>被害状況（被害率、発生率、面積等）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>イナゴ</td> <td>さとうきび植付面積のほぼ全域が被害を受けている</td> </tr> <tr> <td>メイチュウ類</td> <td>さとうきび植付面積の2割～3割の圃場に芯枯れなどの被害が見られる。</td> </tr> <tr> <td>黒穂病</td> <td>平成25年度においてNi9植付地区が被害にあった。</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 病害虫対策の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年14.6haにおいて黒穂病抜き取り作業を行った。</li> <li>・毎年全地区を対象にヤソ事業を実施している。</li> <li>・毎年春先の一斉防除を行っている。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・干ばつ時はバッタの異常発生により大きな被害を招くため、適期防除を啓発する必要がある。</li> <li>・イネヨウトウ等のメイチュウ類が増加の傾向にある。</li> <li>・雑草管理が徹底されておらず、バッタやイネヨウトウの発生源となっている。</li> </ul>	病害虫名	被害状況（被害率、発生率、面積等）	イナゴ	さとうきび植付面積のほぼ全域が被害を受けている	メイチュウ類	さとうきび植付面積の2割～3割の圃場に芯枯れなどの被害が見られる。	黒穂病	平成25年度においてNi9植付地区が被害にあった。	<p><b>【取組の方向】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病害虫の適期防除を推進する。</li> <li>・黒穂病の防除を推進する。</li> <li>・病害抵抗性の品種導入を検討する。</li> </ul> <p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バッタの薬剤防除による被害軽減</li> <li>・黒穂病発生調査及び抜き取り作業の実施</li> <li>・黒穂病抵抗性品種（Ni31）の普及</li> </ul> <p><b>【計画】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雑草防除を徹底することにより、バッタやイネヨウトウの被害軽減を図る。</li> <li>・バッタの適期防除（春先のバッタが小さい段階での防除）をしっかりと行い、被害の抑制を図る。</li> <li>・イネヨウトウの交信かく乱事業と合わせて、その後の個々</li> </ul>	
病害虫名	被害状況（被害率、発生率、面積等）										
イナゴ	さとうきび植付面積のほぼ全域が被害を受けている										
メイチュウ類	さとうきび植付面積の2割～3割の圃場に芯枯れなどの被害が見られる。										
黒穂病	平成25年度においてNi9植付地区が被害にあった。										

- の防除作業の徹底により被害を抑制を図る。
- ・ガイダー等の一斉防除を継続して行い、病虫害の被害を抑える。
- ・病虫害発生予察情報を活用した適期防除を推進し、被害を抑制する。
- ・防災無線により、さとうきび農家への病虫害対策の呼びかけを行う。
- ・関係機関と連携し、黒穂病の抜き取り作業を実施する。

## 2. さとうきび増産に向けた取組の推進体制について

<p>①さとうきび増産に向けた取組推進体制</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>会長 伊江村長</p> <p>副会長 JA おきなわ伊江支店長</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>事務局 伊江村役場農林水産課</p> </div> <div style="border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;"> <p>伊江村農林水産課</p> <p>伊江村農業委員会</p> <p>JA おきなわ伊江支店</p> <p>沖縄県農業共済組合北部支所</p> <p>北部農林水産振興センター農業改良普及課</p> <p>伊江村さとうきび生産組合</p> </div> </div>																					
<p>②関係者の役割分担</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 20%;">参画機関</th> <th rowspan="2" style="width: 20%;">担うべき役割</th> <th colspan="3" style="width: 60%;">具体的取組方策</th> </tr> <tr> <th style="width: 20%;">経営基盤の強化</th> <th style="width: 20%;">生産基盤の強化</th> <th style="width: 20%;">技術対策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 100px; vertical-align: top;">伊江村農林水産課</td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>① プロジェクト会議の事務全般</li> <li>② 国・県との調整</li> <li>③ その他生産体制に関する事項全般</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 共済加入の促進</li> <li>② 受託組織の育成</li> <li>③ 認定農業者の認定</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 水源の確保</li> <li>② 事業導入計画</li> <li>③ 農地風防林の整備</li> <li>④ 展示ほ設置計画</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 優良種苗の増殖普及</li> <li>② 病虫害防除対策</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="height: 50px; vertical-align: top;">伊江村農業委員会</td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 農地流動化に関する事項</li> <li>② 農家への普及啓発活動</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 農地の流動化促進</li> <li>② 耕作放棄地の点検等</li> </ul> </td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				参画機関	担うべき役割	具体的取組方策			経営基盤の強化	生産基盤の強化	技術対策	伊江村農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> <li>① プロジェクト会議の事務全般</li> <li>② 国・県との調整</li> <li>③ その他生産体制に関する事項全般</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 共済加入の促進</li> <li>② 受託組織の育成</li> <li>③ 認定農業者の認定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 水源の確保</li> <li>② 事業導入計画</li> <li>③ 農地風防林の整備</li> <li>④ 展示ほ設置計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 優良種苗の増殖普及</li> <li>② 病虫害防除対策</li> </ul>	伊江村農業委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 農地流動化に関する事項</li> <li>② 農家への普及啓発活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 農地の流動化促進</li> <li>② 耕作放棄地の点検等</li> </ul>		
参画機関	担うべき役割	具体的取組方策																				
		経営基盤の強化	生産基盤の強化	技術対策																		
伊江村農林水産課	<ul style="list-style-type: none"> <li>① プロジェクト会議の事務全般</li> <li>② 国・県との調整</li> <li>③ その他生産体制に関する事項全般</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 共済加入の促進</li> <li>② 受託組織の育成</li> <li>③ 認定農業者の認定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 水源の確保</li> <li>② 事業導入計画</li> <li>③ 農地風防林の整備</li> <li>④ 展示ほ設置計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 優良種苗の増殖普及</li> <li>② 病虫害防除対策</li> </ul>																		
伊江村農業委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 農地流動化に関する事項</li> <li>② 農家への普及啓発活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 農地の流動化促進</li> <li>② 耕作放棄地の点検等</li> </ul>																				

	J Aおきなわ伊江支店	① 農家への普及啓発活動 ② 農家への技術指導に関する事項 ③ 生産組織、受託組織に関する事項 ④ 生産資材に関する事項 ⑤ 品種導入等の技術に関する事項 ⑥ 堆肥・バガス等の供給等	① 受託組織の育成 ② 生産組織の支援 ③ 共済加入の促進 ④ 受託組織等への協力	① バガスの供給 ② 展示ほ設置計画	① 農家への栽培技術指導 ② 優良種苗の普及啓発 ③ 病虫害防除対策 ④ 展示ほ調査協力 ⑤ 適正品種の導入
	沖縄県農業共済組合 (北部支所)	① 共済加入率の促進に係る事項	① 加入促進説明会		
	北部農林水産振興センター 農業改良普及課	① 生産技術に関する事項 ② 事業導入に関する事項 ③ 生産性に関する事項全般 ④ 行政との調整に関する事項 ⑤ 生産組織に関する事項	① 受託組織の指導 ② 農家経営指導 ③ 共済加入促進指導		① 品種構成の指導 ② 技術講習・実演会 ③ 土壌分析調査 ④ その他技術指導
	伊江村さとうきび生産組合	① 会議への参画	① 共済加入の促進	① 展示ほ設置への協力	① 優良種苗の普及啓発 ② 病虫害防除対策
③毎年度の検証方法・体制	毎年度操業終了後に、参画機関による評価会議を開催し、生産実績や取組結果等について報告、評価し、次期取組の課題、役割分担を整理する。				

(参考情報)

1. 沖縄県（伊江島）の概況、農業・さとうきび作の位置づけ等

伊江島は、那覇から約 57 km、本部半島の北西に位置している。面積 22.75k m<sup>2</sup>。人口 4,737 人（平成 22 年国勢調査）。産業別就業構造は、第 1 次産業が 37.7%、第 2 次産業が 11.3%、第 3 次産業が 51.0%（平成 22 年国勢調査）。農業産出額は 364 千万円（H25）で、きく（153 千万円）、畜産（101 千万円）、葉たばこ（84 千万円）が主な農畜産物となっている（平成 26 年度伊江村産業まつり資料）。

さとうきびの生産量は昭和 58/59 年期の 5 万 3 千トンピークに年々減少を続け、製糖工場は平成 15/16 年期の操業を最後に事業廃止。平成 16/17～22/23 年期は、海上輸送を経て球陽製糖に原料を搬入していたが、23/24 年期からは、念願の黒糖工場が完成した。しかしながら、操業から 4 期は相次ぐ台風や干ばつ等の自然災害により、計画の生産までには至っていない。

平成 26 年度から稼働している伊江村堆肥センターや 28 年度から供用開始される地下ダムを利用する事により、単収増加などが見込まれるが、担い手不足や高齢化により、労働力が低下している事から、現在の収穫体系ではさとうきび栽培を維持していく事は困難である。その為、今後、国、沖縄県の指導の下機械化を推進していく必要がある。

1. さとうきび生産の現状

生産の現状

【近年の作物別作付面積の動向、さとうきびの収穫面積、単収、生産量、糖度の推移】

(1) 作物別作付面積の動向

単位：ha

	耕地面積	作付面積	さとうきび	野菜	花卉	果樹	牧草	葉たばこ	その他
H17	1,222	1,000.9	75.5	68.4	81.3	1.7	396.5	326.5	51.1
H18	1,229	1,145.9	18.8	63.8	75.6	1.5	416.8	326.5	137.5
H19	1,290	1,089.3	176.5	52.3	80.1	2.0	425.5	307.6	45.3
H20	1,231	1,065.9	177.5	49.5	82.2	2.0	425.8	291.1	37.7
H21	1,231	1,057.7	170.6	52.3	81.3	2.2	411.5	291.1	49.7
H22	1,231	1,022.7	162.3	47.1	84.8	2.0	412.2	266.4	47.8
H23	1,231	932.7	126.9	39.5	86.8	1.9	416.4	225.9	35.3
H24	1,231	931.4	128.8	31.9	88.0	1.1	427.8	223.5	30.3
H25	1,231	884.1	127.2	33.2	85.7	1.5	394.6	223.5	18.3

## (2) さとうきびの収穫面積、単収、生産量、糖度の推移

	収 穫 面 積 (ha)				単 収 (t / ha)				生 産 量 (t)				糖 度
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	
H17	27	—	12	39	47.348	13.241	20.312	38.347	1,267	11	248	1,526	12.20
H18	105	—	8	113	62.544	—	46.090	61.339	6,554	—	383	6,937	14.20
H19	66	1	28	95	94.491	40.385	49.436	80.723	6,225	21	1,400	7,646	15.10
H20	80	1	22	103	89.351	49.223	49.873	80.368	7,113	46	1,122	8,281	15.80
H21	80	1	25	106	87.194	37.786	50.928	78.102	6,971	48	1,267	8,286	14.70
H22	65	1	25	90	69.811	57.321	44.362	62.757	4,520	45	1,091	5,656	13.80
H23	51	—	6	56	34.494	—	26.845	33.739	1,750	—	149	1,899	13.90
H24	50	1	12	63	52.000	45.230	28.460	47.470	2,605	23	338	2,966	11.30
H25	60	—	5	65	50.720	23.600	36.230	49.480	3,018	2	196	3,216	14.30
H26	65	—	9	74	60.383	29.556	31.739	56.788	3,907	3	292	4,202	13.30

## 【年齢階層別農家戸数】(単位：人)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計
H17	1	9	42	74	71	197
H18	1	4	36	74	69	184
H19	—	5	28	82	82	197
H20	—	4	26	75	83	188
H21	—	5	18	63	86	172
H22	1	4	23	70	97	195
H23	1	1	22	61	90	175
H24	1	1	13	38	84	137
H25	1	9	42	74	71	197
H26	1	4	36	74	69	184

【経営（収穫）規模別農家戸数】

(単位：戸)

	100a 未満	100～300a 未満	300a～500a 未満	500a 以上	合計
H17	111	6	—	—	117
H18	182	31	1	—	214
H19	173	24	1	—	198
H20	165	21	1	1	188
H21	179	26	1	—	206
H22	174	19	—	—	193
H23	155	5	—	—	160
H24	137	13	—	—	150
H25	146	14	—	—	160
H26	152	15	1	—	168

【製糖工場の操業状況】

	操業率 (%)	操業期間 (日)	歩留 (%)	トラッシュ率 (%)
H23	37.98	57	13.65	1.09
H24	59.38	67	11.14	0.37
H25	64.32	59	13.35	0.68
H26	84.04	72	12.68	0.60